

# 高温に伴う農作物等の管理対策

令和4年4月13日  
新潟県農林水産部

新潟地方気象台が4月11日に「高温に関する早期天候情報（北陸地方）」を発表し、20日頃からかなりの高温（5日間平均気温平年差+2.4℃以上）になる可能性があるとして予想しています。

については、下記の管理対策を参考として、高温に伴う農作物等の管理に十分留意してください。

## 1 水稲

- (1) 浸種水温が高温になる恐れがあるので、酸素不足にならないように浸種5日目以降は（温湯消毒の場合は浸種開始後から）こまめに水を更新し、10～15℃の水温を保つ。戸外での浸種は、特に温度管理に注意する。
- (2) 出芽期や緑化期に高温に遭遇すると白化苗やヤケ苗が発生しやすいので、温度管理に十分留意する。
- (3) ビニールハウス内は日射が強いと温度上昇が著しくなるので、は種後は温度計で温度をこまめに確認する。は種直後で被覆中でも注意する。
- (4) 緑化期の高温、過湿は細菌性病害の発病を助長するので、昼間の温度は20～25℃をめやすにハウス内の温度管理を行う。出芽期、緑化期に30℃以上になる時は、必ず換気する。
- (5) 硬化期は、昼間の温度が20℃以上の高温にならないようにハウスを十分開放して温度の上昇を防ぐ。また、蒸散による葉の萎凋を防止するため、適正な水管理を徹底する。

## 2 大麦

生育の早まりが予想されるため、止葉抽出期追肥が遅れないよう生育状況を把握して適期に施用する。

## 3 園芸全般

- (1) 病虫害発生予察情報等に留意し、生育ステージに応じた適切な病虫害防除に努める。なお、高温時の薬剤散布は、薬害の恐れがあるので避ける。
- (2) 気温の上昇に伴い、施設ではコナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類などが増加する恐れがあり、また、露地でもアブラムシ類などの害虫が発生する恐れがあるので、発生状況に応じて適期に防除する。

## 4 野菜

### (1) 施設野菜（トマト、きゅうり、いちごなど）

ア 天候に応じて細かな換気等を行い急激な温度変化を避ける。

イ 着果負担が生じているほ場では、ガク枯れや葉先枯れが発生し、その枯れた部分から灰色かび病などの病害が発生しやすくなるため、換気による適切な温度・湿度管理を徹底する。また、必要に応じ内張カーテンによる遮光等を行う。

病害が発生した場合は、葉かきや花びら取り、罹病葉の除去を行い、その後防除する。

ウ 育苗中の苗類は、25℃を目安に換気を行い、育苗ハウス内の温度を下げる。しおれが見られる場合は、寒冷紗等でハウス全体を遮光する。

エ いちごは、ハウス内温度を下げるため換気を強めるとともに、吸水量も増加するため、葉がしおれないようかん水回数を増やす。

高温下では果実の品質が低下しやすいので、収穫後の取扱いを丁寧に行い、果実のオセ・スレの発生を防止する。

オ ハウスすいかでは、30～35℃をめやすに換気量を調整する。日中に葉のしおれ等が目立つ場合は、チューブかん水を行う。

### (2) 露地野菜

ア 定植期のほ場では、高温乾燥による葉焼けや活着遅れが懸念されるため、定植時にかん水をする。

なお、かん水設備がない場合は、定植時に植穴かん水を行う。

イ 移植栽培のえだまめの育苗においては、は種直後の高温による発芽不良に十分注意する。

また、高温・乾燥により培土が乾きやすくなることがあるので、こまめに観察して適宜かん水を行う。

ウ トンネルえだまめでは、高温による葉焼けに注意し、適時トンネル換気を行う。

エ トンネルすいかでは、通常より若干換気量を多くする。密閉トンネルでは、高温による葉焼けに十分注意し、葉が巻く場合は、トンネルのうね尻とうね頭に換気穴を設ける。

## 5 果樹

(1) 開花予測情報 (<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/engei/>) によれば、日本なし「幸水」、もも「あかつき」の現在の生育進度は平年に比べ2～3日早くなっている。

(2) 今後の高温により生育が早まる可能性があるため、生育進度を把握しながら、管理作業を進める。日本なし、西洋なしでは受粉作業が遅れないように花粉採取等の準備を計画的に進める。また、摘らい、予備摘果、芽かきなどの管理作業は、生育ステージに合わせ適期に行う。

(3) ぶどう、日本なしなどの施設栽培は、ハウス内の高温による生育障害を招きやすいため、換気による適切な温度・湿度管理に努める。

(4) 病害虫発生予察情報等に留意し、生育ステージに応じた適切な病害虫防除に努める。

特にセイヨウナシ褐色斑点病の感染好適条件（15～25℃で8時間以上の湿潤）が今後整ってくるため、開花予測情報を参考に防除間隔を設定する。なお、高温時の薬剤散布は、薬害を招く恐れがあるので避ける。

## 6 花き

- (1) 球根養成は、土壌が極端に乾燥しないように適宜かん水する。特に砂丘畑など乾燥するほ場では、スプリンクラーで定期的にかん水する。
- (2) 切花及び鉢物などの施設栽培は、高温や強日射により葉焼け等の生育障害が生じやすいので、遮光資材の活用や換気等による適切な温度・湿度管理を実施する。また、土壌が乾燥しないよう土壌水分に注意し、適切にかん水を行う。

## 7 畜産

- (1) 天気予報に注意し、急な気温上昇に伴う家畜疾病を予防するため、換気・送風・寒冷紗・屋根への塗装等の暑熱対策を早めに準備する。  
特に、換気扇、送風機は支障なく稼動するよう、ほこりを落とし、ベルトの張り、注油などの点検、電気系統の具合もチェックする（掃除をすることによって、風量も含めて効率がアップする）。
- (2) 開放畜舎では、通風をよくするために開口部はできるだけ開放し、空気の流れを妨げるものを除去する。
- (3) 搾乳牛は畜舎内の温度が20℃を超えたら暑熱対策を実施し、家畜の体感温度の低下に努める。
- (4) 家畜の観察を励行するとともに、餌槽や飲水設備をこまめに清掃・点検し、新鮮な飼料・飲水が確保されるように努める。
- (5) 良質な飼料給与により食欲低下を防止する。
- (6) 高温時のミネラル、ビタミン及び重曹の給与は効果があるので、家畜への慣らし給与を始める。

## 8 きのこと

- (1) ハウス内の高温による生育障害を防ぐため、換気による適切な温度・湿度管理に努める。
- (2) 換気をする場合は、害菌・害虫の進入防止対策に努める。
- (3) 害菌の早期発見に努め、汚染された菌床は速やかに撤去する。
- (4) 高温下では、きのこの品質低下が著しいので、適期収穫に努める。
- (5) 収穫したきのこは、速やかに保冷库等で保管する。
- (6) 露地栽培については、通風確保や散水などによる温度・湿度管理に努める。
- (7) 仮伏せ中のほだ木をシート等で被覆している場合は、通風、日除け、散水などで温度管理に努める。
- (8) その他、極端な温度変化による影響の早期発見に努め、適切に対応するよう留意する。